

学校図書館 No.13 Take Off!



本号の目次

トピックス

『学校図書館井戸端会議』 レポート ————— P. 2~3

連載

『教室での読み聞かせ』 会員のおすすめの本 ————— P. 4

『柔らかで芯の通った学校と学校図書館を』 志々目彰 ——— P. 5

活動報告

教育長へ「学校図書館の充実を願う要望書」を提出 ————— P. 6

会員学習会「製本講習」レポート ————— P. 7

お知らせ

学校図書館や子どもの本に関する勉強会の情報、その他—P. 8

理科の学習の一環として、四年生の教室でカナヘビを飼っていました。そのカナヘビが卵を産みましたが、すぐにペチャンコになって干からびてしまいました。しばらくして、また別のカナヘビが卵を産みました。その卵の誕生を願い、教師と子どもたちは学校図書館で、カナヘビの本を熱心に読み始め、正しい飼い方を見つけました。結局その卵も誕生させることはできませんでしたが、誕生ぎりぎりまで世話をすることができました。

子どもたちは、自分の興味関心から自分の課題を自分で調べるのが大好きです。そんな時の目は、キラキラしています。そんな子どもたちが大勢育ってほしいと思います。学校図書館は、学校教育の中心として教師や子どもたちの学習意欲を支えてくれる存在であります。その機能を十分發揮させることができる専門職の司書さんの存在も欠かせません。八王子の学校図書館のさらなる発展を望んでいます。

(本会代表 宮本茂)

八王子に学校図書館を育てる会広報紙
二〇一三年九月三十日発行 第十三号

トピックス「学ぶ」とは変わる「ついで」

平成二十五年度子どもゆめ基金助成事業 「学校図書館井戸端会議 パート2」レポート

七月十一日（木）十時から十二時まで、生涯学習センターで「学校図書館井戸端会議」が行われました。暑い日でしたが、十八名の参加者が学校図書館について、それは熱く語り合いました。

今回は「八王子市 学校図書館サポート事業」の一環としての「サポーター」が派遣されている学校や「重点校」を経験した学校からの報告を中心として活発に意見交流が行われました。

以下にまとめてみます。



・サポーターは入ったが、だんだんボランティアの数が減り試行錯誤の道を歩んできた。サポーターも大変忙しそうではあったが、少しずつ話し合いながら、活動を進めた。ボランティアはサポーターから図書の仕事をも学んだ。今では学校図書館の読書環境がずいぶん改善されてきた。

・学校は常に忙しそうで、図書館サポート事業に関しても、管理職はそれに関わる仕事に集中できない現状も一部にあるようだ。学校図書館充実のため、

児童生徒の読書活動推進のため、探求型学習の一層の充実のために教育委員会への関係書類申請をこれからも吟味しながら積極的に提出して行ってほしい。

・かつて学校図書館の設備・運営に関して先進校であった学校も人が変わりボランティア活動も後退しかけ、学校とボランティアの関係がこじれた時もあった。最低ラインをキープしながらノウハウを引き継ぎ、地道に活動を継続していくことが大切である。重点校になったことをきっかけに保護者や学校の意識も変わってきた。学校とボランティアが連携しながら進めていくことが重要である。

・小学校にサポーターが来てくれて学校図書館は変わってきた。ただ、ボランティアの意識は変わったが学校の意識はまだそんなに変わっていない。中学校ではサポーターの効果はあまりない。司書を入れるより教師のことを考えたい。そもそも司書教諭が担任をしながら、図書館の仕事をするのには無理がある。結局ボランティアにおんぶにだっこになつてしまう。

・司書教諭になって後悔する先生もいるがそんな話は聞きたくもない。

・司書教諭に触れた文章が「学校図書館 テイクオフ十一号」に掲載されているので読んでほしい。

・司書教諭が担任でなくなったので、話し合える

ようになった。

・ 中学校の図書室はおいかけっこをしたり、読まれるとしたら、ブラック・ジャックであったりするが、何かが変われば学校図書館も変わると思う。希望をもって取り組んでいこう。

・ ボランティア活動は頑張ってきたが、学校は何も考えていないのではという疑問がおこり、対立関係になった。ボランティアは司書と一緒に活動したいという思いはある。サポーターが派遣され、司書教諭や管理職の意識が変わっていった。学校がヘッドになってやれるようになってきた。研修があるので司書教諭や先生や管理職や保護者が変わっていった。ボランティアが毎日学校に通ってもダメで、専門の司書や司書教諭が毎日学校にいてくれることが重要である。

・ サポーターが来てくれて、有難かった。ボランティアはサポーターに本のことを教えてもらえた。また、児童は図書の授業時間にオリエンテーションをやってもらえて有難かった。司書教諭は忙しくて二週間もサポーターと話し合えないこともあり残念。
・ 昨年の井戸端会議に参加して朝陽小学校のビデオを観て自分の意識が変わった。本気になって考えるようになった。サポーター事業のスタッフの方々が窓口になって学校に話をしてくれた。ボランティア



は常に学校とコミュニケーションを図るように心掛けています。先生たちの意識も変わっていった。重点校になったのは大きい。調べ学習室を作ったら、子どもたちの意識も変わっていった。あのビデオを観てから、「学校図書館を変えたい」という思いがわいた。ああやって一生懸命やったら変わると思った。

・ 学校図書館に司書がほしい。司書がいると資料を集めたり、授業の手助けをしたり、授業のレベルアップにつながるのに。子供たちは学びたいという気持ちをもっていい。本校ではボランティアとPTAがタイアップして活動している。

ざっくばらんな学校間の交流ができたことは貴重な機会だったと思います。意見交流の場だけではなく、研修の場にもなりました。

「学ぶことは 変わること」



(文責 大島真理子)

『りゅうのめのなみだ』

浜田広介・文／いわさきちひろ・絵・偕成社

世の中には『不思議な魔力』を持った絵本があるものです。その絵本が部屋のかたすみにあると気づいた瞬間、部屋じゅうがなんとなく清々しい空気に満たされる。そんな経験をしたことはありませんか？私にとつて『りゅうのめのなみだ』がそれです。きつと、ひろすけの日本語の美しさとちひろの絵の温かさが出会ったから、『不思議な魔力』を持つ絵本に昇華したのでしょうか。



物語は、人びとに嫌われ怖れられた竜の噂から始まります。ひとりの男の子が、まことの思いやりを持って竜の名まえを呼ぶのです。竜は男の子のことに涙を流し、自分の決心を語ります。

教室で読んでみました。最初の一行から、子どもたちと一緒にすつとその世界に連れて行かれました。半世紀を迎えようとしている絵本には力があつて当然です。どうぞ教室の子どもたちと異空間に旅立ち、深い感動を共有してみてください。

(宮坂 千佳子)

「教室での読みきかせ」会員のおすすめ絵本

日本語の楽しさを感じる本 『これはのみのびこ』

谷川俊太郎作・和田誠絵・サンリード出版

月一度の読み聞かせ、この月は丁度息子のクラスの担当でした。本を選んでいると「僕、皆に紹介したい本があるから、ママに読んで貰いたい。」と息子が一冊の本を手をやつてきました。『これはのみのびこ』です。物語のようで物語ではない、『じゅげむ』のように何度も繰り返し、少しずつ長くなるたった一文なのですが、言葉遊び絵本として説明するだけでは勿体無い本です。ほぼ暗記出来ていたので、子ども達の顔を見ながら読めました。その楽しそうな表情。同じ文を繰り返す為、覚えて一緒に口ずさむ子、次に続く一文に嬉々とした表情の子。その頃、国語の授業は『あいうえおさま』で言葉遊び真っ最中だった事も思い出し、息子の選書に感謝しました。終わって手に取る子もチラホラ。

日本語とは、なんと面白いのです。よう。谷川さんは、沢山心に残る詩を残されていますが、彼の大切にしている日本語が、この本を口ずさむ子ども達を通して見られたようでした。

(滝本 麻実子)



表紙画像の使用は出版社の許諾を得ています。

学校へ通うことが悪いという理由で撃たれたパキスタンの少女が、女子教育の必要性を訴えて世界中の共感を呼んでいる。学校とは人類の営為が生み出したすばらしい施設である。だが今の日本の学校には求めても得られないものがある。個々の学校や教師の責任でなく、社会が気付いていないからだ。そのうちの一つが祖先の伝承を耳から聞かせることだと私は思っている。いわゆる「読み聞かせ」はずいぶん普及した。その原形である素話（すばなし）もストーリーテリングも公共図書館や民間の子ども文庫では珍しくなくなった。しかし学校教育の正課にはなっていない。ただでさえ忙しい教師だけに求めるのは酷だから、父兄や保護者も共にその役割の理解を広めてほしいと思う。

「お話し」という催しがある。本格的な場合は部屋を暗くし、ろうそくを灯して小さな明りのもとで昔話などを語る。原始、機械も書籍もなかった人類が、貴重な焚き火を囲んで口伝えに文明を育んだ太古の歴史が彷彿として蘇るようである。その時、聞いている子どもたちの心に何が響くか。期待、恐怖、憧憬、人それぞれ

連載『柔らかで芯の通った学校と学校図書館を』——志々目 彰——

れだろうが、現世を離れて神と人間が向き合うひとときを感じることは間違いない。ただこのことは経験者には説明無用でも、そうでない人に理屈で伝えるのは難しい。まして点数や管理には不都合・無関係で、手間暇だけを消費するから、忙しい学校管理に入り込めないのはやむをえない。だがそれは未来のための基本的な「投資」なのだ。なんとかして学校という有効な施設に取り込めたいと思う。

“おはなしのろうそく”の僅かな明りに子どもたちの瞳がきらきらと輝くのを感じた人なら、学校の先生がこんなすばらしい教育手段を知らないで過ごすのはもったいないと必ず思うだろう。私は役人役人した行政マンには期待していないが、人間が好き、本が好きという先生や司書やボランティアが自由に活動できたらいと思っている。学校の図書室が書庫としての図書室でなく「学校図書館」と呼ばれ始めているのも、こういう願いが全国的に強まっているからではないか。今の日本とその子どもたちに必要なのは、柔らかで芯の通った授業、体験、読書である。政治に振り回される戦争マンガの処理などはその次である。大人の方の芯のあり方が問われているといえるだろう。

私たちは「声」をつなぐ

―八王子市教育長との面談と要望書提出―

八月二十二日、学校図書館の充実についての要望書を八王子市教育長に提出してきました。項目をかいつまんで記すと、

- 一、 現行の「学校図書館サポート事業」を今後も指導課のもとで推進してほしいということ。
- 二、 「読書推進担当のサポーター」「学校図書館読書指導員」などの名称変更。
- 三、 現行の「学校図書館サポート事業」の教職員への周知徹底と、司書教諭の条件整備を市教委主導でお願いしたいということ。
- 四、 エアコン、バーコードリーダーを含む蔵書管理システムなどの設備面の充実。
- 五、 学校図書館は学校の中の公共図書館ではなく学習の拠点であることを共通の理解とし、八王子市としての『学校図書館活用マニュアル』を作成してほしいということ。
- 六、 「読書推進担当」が同一校に一年以上勤務できるような配慮をお願いしたいということ。

応対してくださったのは坂倉教育長と石川指導主事でした。

これらの要望をまとめるにあたっては、七月十一日に開催した「学校図書館井戸端会議」（以下「井戸端」）に参加してくださったボランティアのみなさんの声が大きくなりなりました。わたしたち「八王子に学校図書館を育てる会」はいわば「学校図書館に特化した集団」で、自分たちが気づかないまま現場と遊離していることがままありますが、今回は、みなさんの声を汲みあげて上につなげる役割が果たせたと思います。

そして坂倉教育長のお話の中には、「サポーターなどの現場の声を汲めるようにしていきたい」という言葉がありました。うれしい呼応です。

現行の「学校図書館サポート事業」については「市教委としてのアピール不足もあるが、もっと知ってほしいし、派遣されたサポーターをもっと活用してほしい」と口にされました。「井戸端」でも、巡回と派遣を両輪とする「学校図書館サポート事業」の感触は良好でした。とはいいながら一般にはまだ知名度が低いこの事業。上から下から言葉を掛け合いながら、大切に育て上げていった先に八王子の学校図書館の形があるのだと、今回の面談で確信することができました。

「井戸端」で生の声を聞かせてくれたみなさん、ありがとうございました。正式な回答はテイクオフ紙面・HPにてご報告します。お楽しみに。（松下 記）

会員内研修『製本講習』九月八日開催

「製本講座」といつても、本講座はプロ仕様の本格的なものではありません。文庫本の表紙をはずして花布や寒冷紗で中身を整え、板ボールとクロスで仕立てた表紙部分と合体させる簡単なものです。

会員内研修でしたが、一般の方にも門戸を開いて開催した今回。受講者は九名とごちんまりながら、和気あいあいと進めることができました。自分で表紙の色を選び、手間暇かけて自分仕様のハードカバー愛蔵版を作り上げたいうれしさ誇らしさ。参加者からは喜びの声が上がりました。「不器用なわたしでもきれいできた」「こんなにうまくできるなら、お気に入りの本を持ってこればよかった」など。

「製本講座」は、育てる会発足当時から看板講座のひとつです。文庫本を解体して製本しなおすことで本の構造を学び、学校図書館での修理に役立てようというのが目的です。最初の二年は、八王子の公立図書館で活躍していらっしやる図書館ボランティアのみなさんにご指導いただき開催していましたが、以後は会員が方々の講座に勉強に行き、知識や技術を持ち帰って、育



てる会なりの製本・修理の方法を確立し自前で開催してきました。出張も致します。(松下 貴子 記)

国分寺市立第九小学校見学記

今年の二月二十七日、西武国分寺線恋ヶ窪駅からほど近くにある、国分寺市立第九小学校の学校図書館の見学をしました。中休みと図書時間の様子を見て、学校司書の中務さんよりお話を伺いました。館内にはおはなしコーナーがあり、居心地の良い空間が作られています。図書の時間では、三年生がおはなしの会「でんでんだいこ」の皆さんの語りの世界に引き込まれていました。児童は各自が持つ「読書ファイル」に読書記録や図書の時間で使ったプリントを入れているので、一年間の読書活動が一目でわかります。

国分寺市は平成二十二年度より複数校勤務だった司書が専任(一日五時間、週五日)で配置されるようになりました。一年目は分類ラベルの貼り直しから始め、環境を整えていったそうです。二時間目から五時間目までしかいられないという制約はありますが、図書館での読書指導や学習利用支援、図書ボランティア(装飾、整備)との連携など、司書の役割は大きいと感じました。

(橘爪 ゆり 記)

お知らせ

製本講習や他市学校図書館見学会のように、本会では一人でも多くの方が学校図書館の充実に興味関心を持ってくださるような様々な企画をしています。今年度もまだまだ続きます。ぜひご参加ください。

十月十九日 広瀬恒子さん講演会

十二月七日 堀川照代さん講演会

二月頃 他市学校図書館見学会

他市の情報など

■親子読書地域文庫連絡会

『一人ひとりの読書をたいせつにする社会を』
国立青少年センターにて

十月十二日・十三日(土・日)

(詳細は親地連HPでご確認ください。十三日は、本会も八王子市の現状と私たちの活動紹介で参加します。朽木祥さん、杉山亮さんの講演など。



<http://www.oyatiren.net/19th.html>

■日本子どもの本研究会 子どもの本の学校

多摩市立関戸図書館研修室にて

十月五日(十回連続)

(問い合わせは日本子どもの本研究会)

電話・03-3994-3961

Fax・03-3992-0362)

会員募集

正会員：…本会のすべての活動に参加できます。

入会金500円、

年会費1000円です。

賛助会員：…広報紙やイベントの情報をお届けします。本

会の活動を支援して下さる個人、団体の方。

年会費一口1000円です。

編集後記

今年度も「八王子に学校図書館を育てる会」として教育長へ要望書を提出しました。専門職としての学校司書にこだわりながら、同じ思いの仲間を増やし、活動の輪を広げたいと思います。

私たちの活動をHPで紹介しています。各種お問い合わせもこちらから受けできますので、校外URLへぜひお立ち寄り下さい。